

## NetCommons で実現する教育向けワンストップサービス

国立情報学研究所 社会共有知研究センター長 新井紀子  
arai@nii.ac.jp

キーワード：CMS，学校ウェブサイト，校務の情報化，ASP

### 1. はじめに

NetCommons は主として公共機関をターゲットにした、Web 2.0 世代の情報共有基盤システムです。2001年から、国立情報学研究所で開発され、2005年からオープンソースとして提供されています。NetCommons には、CMS (Contents Management System) と LMS (Learning Management System) とグループウェアの機能が統合されており、これによりワンストップシステムが実現されています。現在、鳥取県教育委員会、埼玉県教育委員会、栃木県総合教育センター、長崎県総合教育センター、千葉県総合教育センター等、各地の教育センターや教育委員会、学校など約2000団体に導入され、学校ウェブサイト・緊急連絡網・メーリングリスト・バーチャル職員室・学習ポートフォリオなどさまざまな用途に用いられています。

### 2. NetCommons1.1 の利点と課題

国立情報学研究所では、2006年に文部科学省の新教育システム支援プログラム、2007年に同、先導的教育情報化推進プログラムに採択され、NetCommons1.0 および NetCommons1.1 の学校向けディストリビューションを開発し、各地の教育センター・教育委員会に提供、導入支援をしてきました。図1は高校教員30名に対して、1時間のNetCommons 操作研修を行った後に実施したアンケートの結果です。実に90%以上の教員が、NetCommons を導入することによって、(1) 学校Webサイト管理の手間が減り、(2) 更新が楽になり、(3) 保護者・教員・生徒に対してメリットがある、と答えています。また、ほかのWebサイト構築ツールに比べて、(4) 機能が充実している、と答えています。

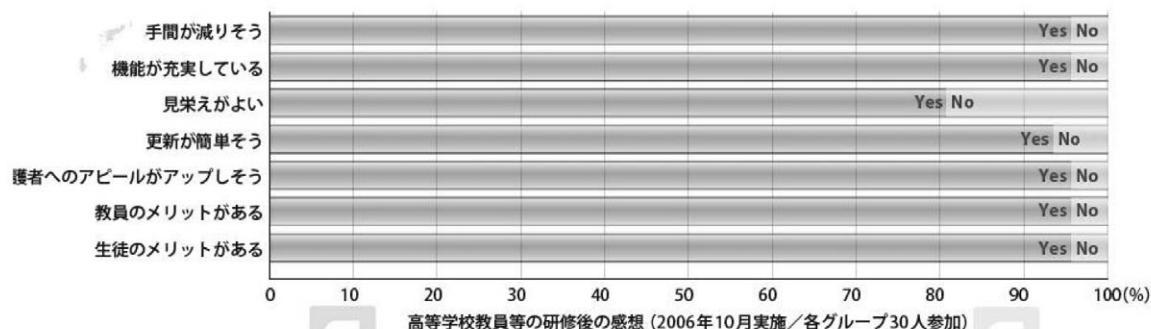


図1. NetCommons 研修会アンケート結果

総合教育センターの指導主事へのヒアリングで、NetCommons の利点として挙げられた回数が最も多かったのが、研修時間の短縮効果でした。従来のホームページ作成に関する研修会では、ホームページ作成ソフトの使い方、ftp の利用方法など、一週間に及ぶ研修を行っても、なかなかウェブサイト構築につながりませんでした。一方、NetCommons であれば、1時間の操作研修でほぼ全員が使い方をマスターすることができました。特に、wysiwyg エディタを全面的に採用した NetCommons1.1 は、ワープロソフトと使い勝手が同じであるため(右図)、研修をしなくても使い方を理解できる教員が大半であった、との回答もありました。「オープンソフトのCMSでは、モジュールごとにユーザインタフェイスが異なり、研修に時間がかかるのが難点だが、NetCommons で



はすべてのモジュールのインタフェースが統一されているので、ひとつのモジュールの使い方を覚えれば、ほかの使い方がわかる」という声も多く聞かれました。

一方で、約2割の教員が、NetCommonsで構築したサイトはホームページビルダーで構築したサイトに比べて見栄えが劣る、と回答しています。また、NetCommonsの利点を上記のように認めながらも、実際の導入に前向きな教員は半数程度にとどまりました。

記述式アンケート結果を解析した結果、次のような課題が浮かび上がりました。ひとつは、NetCommonsで構築したウェブサイトは、どれも似たデザインになってしまい、個性を十分に発揮できないという不満です。もうひとつは、このような学校ウェブサイト運用するためのノウハウが学校に蓄積されていないため、不安がある、ということでした。

### 3. NetCommons2.0の開発

コンテンツマネジメントシステムでは、データベースに格納されている情報をモジュールとしてページ上に表現するため、どうしてもページの表現に関して制約があります。NetCommonsに限らず、CMSを導入すると、どれも似たような見栄えになってしまうのはこのためです。この問題を解消すべく、NetCommons2.0では、ページごとにデザインを選択できるようにするだけでなく、ページ上に設置したモジュールブロックごとにデザインを選ぶことができるよう改良を行いました。これによって、強調したい情報については、モジュールタイトルをハイライトする、などの工夫ができ、よりインパクトのあるウェブページが構築可能となりました。

NetCommons2.0では、Ajax技術をフルに取り入れることで、モジュールの移動やリンクリストの並べ替え、ファイルの削除等がドラッグ&ドロップで行うことができ、Webを感じさせないリッチな操作感を実現しています。また、サイトの編集作業を分担しやすいように、ページごとに編集担当者を指定できる機能を追加しました。この機能を活用すると、NetCommons内のバーチャルな教室の中に、班を作成し、各班のリーダーを指定して、子供たちに自由に班活動をさせることもできます。また、グループルーム間でモジュールを共有したり、移動させたりする機能も新たに付け加えました。



図2 NetCommons1.1学校向けディストリビューションのデザインとNetCommons2.0のデザインの比較

### 4. 運用ノウハウの蓄積と共有

今年度NetCommonsを県内に導入した栃木県総合教育センターでは、NetCommonsの操作実習を実施するだけでなく、NetCommonsを学校に導入する際のロードマップや、運用マニュアルの策定を行いました。これにより新しいタイプの学校ウェブサイトを導入することへの教員の不安感が取り除かれ、学校全体でウェブサイトを作り上げていく気風が生まれたといえます。栃木県佐野市の中学校では、NetCommons導入前には、学校ウェブサイト構築に「よくかかわっている」「時々かかわっている」教員は全体の10%未満でしたが、導入後には、49%にまで増加しました。また、現在かかわっていない教員のうちの1/3が「今後はかかわっていききたい」と答えています。

### 5. 今後の予定

国立情報学研究所では、学校の情報化を支援するため、今後もNetCommonsの開発と普及を推進していきます。2008年8月11日にはユーザカンファレンスを開催し、NetCommonsの運用ノウハウおよび事例の共有を図るとともに、NetCommons2.0の公開を予定しています。